

第4回 2025年大阪・関西万博 予算執行監視委員会
議事要旨

日時：令和6年7月29日（月）10:00～11:30

場所：経済産業省本館12階特別会議室及びオンライン

<出席者>

委員（五十音順・敬称略）：

上山 信一 慶応義塾大学 名誉教授
小笠原 直 監査法人アヴァンティア法人代表 CEO
梶川 融 太陽有限責任監査法人 会長
加藤 一郎 村田・加藤・小森法律事務所 弁護士
坂田 明 明豊ファシリティワークス（株）代表取締役会長
常陰 均 三井住友信託銀行（株）特別顧問
堀田 昌英 東京大学大学院工学系研究科 教授

経済産業省

片岡 宏一郎 大臣官房長
茂木 正 国際博覧会首席統括官
浦上 健一郎 大臣官房審議官（国際博覧会担当）
奥田 修司 商務・サービスグループ博覧会推進室長

（公社）2025年日本国際博覧会協会

小野 平八郎 副事務総長（理事）
岩田 泰 経営企画室長
藁田 博行 整備局長

内閣官房

井上 学 国際博覧会推進本部事務局次長

大阪府・大阪市

彌園 友則 万博推進局長

<議事次第>

1. 開会
2. 運営費・建設費執行状況について
3. 大阪・関西万博の準備状況について
4. その他
5. 閉会

<配布資料>

- 資料1 議事次第
資料2 委員等名簿
資料3 運営費・建設費執行状況について
資料4 大阪・関西万博の準備状況について
資料5 建設コスト推移表（概要）
資料6 博覧会協会への要請事項について

<議事概要>

資料3、資料4及び資料5を博覧会協会及び経済産業省より説明をした上で討議を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。(順不同)

○大事な論点について物事の進行に沿って妥当なことをしているとの印象は持っている。その上で、準備が進む過程で起こりうるリスクやコストは、この際棚卸しをして早めに潰しておくべき。例えば、ガスが出ることも埋め立て地に関わった人なら分かる話であり、リユースも最近の現場では設計段階からLCCを考えることになっている。リング以外の建造物についても後からリユースを求める声が高まる可能性もある。今後建設するものはリユースを考えて設計を変更するなど、再点検する余地があるのではないか。

○大屋根リングの再利用に関してマーケット・サウンディングを行ったとの説明があったが、開催後の建築物等の取扱については、民間企業であればオークションにかけるといった対応を検討するのではないかと。レガシーとして文化的価値もあるものなので、単に部材として処分するという発想ではなく、建物丸ごとの移設やオークションなどを検討してみてもどうか。

(経済産業省「国費を投入している関係上、自治体が活用する場合は無償、民間は有償となる。ただ有償の範囲が解体費や輸送費も入るのか等は協議中であり、マーケット・サウンディングの結果も踏まえ、今後事業者と調整していく。また、建物ごとの再利用について今後公募を行うこととしており、部材あるいは設備什器の再利用なども段階的に応募を行っていく。」)

○大屋根リングのリユースについて、万博のレガシーとしてそのまま存置すると仮定した場合、その譲渡や費用負担に関して、最終的な判断権者・責任者はどの主体なのか。

(経済産業省「大屋根リングを含む会場建設費は、国や大阪府・市からの補助金及び民間からの寄付金として整理されており、所有権は事業主体である博覧会協会にある。国や大阪府・市は、補助金の適正な管理という観点で博覧会協会と協議している。」)

○不確定要素となっているタイプX問題、リングのリユース問題、更にはメタンガス対応問題といった諸点について、予備費130億円の中か外かも含め、それぞれ確度に濃淡がある。即ち、タイプX転用の費用はかなり早く内容が固まっていくのではないかとと思うし、メタンガスといった問題も安全確保という面では対応必須のもの。他方で、大屋根リングの解体費は、大阪府市より年末までに示されるという跡地利用の方策次第で大きく変わるもの。確度もスピード感も異なる中で、タイムスケジュールとしてそれぞれのスピード感を見極め、確定させるべきものは確定させるとともに、レガシーとしてどうするかといった不確定なものについては、大阪府市を含めた関係者間で精緻に情報交換をし、年末までにしっかりと状況の共有化をしておくべき。

○資料4に関して、タイプAの契約締結状況を教えてほしい。タイプAは各国が主体となって契約を締結しているが、契約が遅れるほど、工期や費用の問題も出てくる。仮に遅い段階になって建設が困難となるような場合、協会の会場建設費のバランスにも影響を及ぼすのか。

(経済産業省「タイプAの契約状況については、47カ国中、契約締結済みは43ヶ国で、残り4カ国についても、複数社と基礎工事の契約調整中の段階と聞いている。残った4カ国は小さなパビリオンであり、一ヶ月程度の短い工期で完工できると見ている。一方で、契約締結済みの国についても、工事の進捗はつぶさにフォローしていく必要があり、協会からも必要に応じて働きかけをしていくと認識。」)

(博覧会協会「タイプ A については、未契約の国が実際の作業を担う事業者をきちんと見つけているかを注視。これから未着工の国も着工するところが続々と出てきて、8 月末までには一定の進捗が期待できるのではないか。)」

○資料 5 に関して、建設も運営も、様々なシミュレーションを行いながら対応しているものと理解するが、資料 5 の「進捗率」の数字をどのように理解すべきか。

(経済産業省「進捗率は、契約額のうち実際の工事完了に至った出来高を示す数字であり、その点は誤解ないように明確に説明をしていきたい。)」

○大工区以外も進捗率を出せないか。また、タイプ X の C 転用等に伴う追加費用について、どういう項目の費用が必要なのか具体的に教えて欲しい。さらに、リユースについて、もともと想定していた解体費はどの程度か。

(経済産業省「タイプ C については、内装・配線・配管などで追加費用が生じうることに加えて、駆体の建設費用も協会負担となる。解体費用については、資料 5 の大工区や主要施設の項目毎に、それぞれ建設と解体が含まれた契約となっており、各項目の中に溶け込んでいる。)」

○資料 5 に関して、以前から比べると、会場建設費の執行状況も推移を可視化していただき、我々も理解しやすくなった。一方で、開幕まであと 10 ヶ月を切った段階で不確定要素がまだあるということで、予備費 130 億円の枠内に収まるかどうかの不安感はまだある。整備局はこの先の見通しについて把握していると思われるため、そこが我々にも伝わると安心する。

(以上)